

削除品	七	一一	眞空管	＝	個
同	同	一二	紙蓄電器	甲	個
同	同	一二	可變抵抗器	個	個
同	同	一二	安全溶解線	個	個
同	同	一二	表示電球	甲	個
同	同	一二	電源濾波器用捲線抵抗器	個	個
同	同	一二	豫備品收納筒	個	個
同	同	一二	紙蓄電器	乙	個
同	同	一二	同	丙	個
同	同	一二	振動子	個	個
同	同	一二	表示電球	乙	個
同	同	一二	同	丙	個
同	同	一二	同	丁	個

内令第四三〇號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

下關防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二百十七號(横)」ノ次ニ「第二百三十二號(佐)、第二百三十九號(高)、第二百四十五號(佐)」ヲ加フ

船名	特設艦船種別	所管
汽船 第三萬代丸		
同 第二太平丸		
同 第七大平丸		
同 第三高倉丸		
同 第四神威丸		
同 第七島海丸		
同 第八國見丸		
同 第九藏王丸		
同 第三十四郵船丸		
同 第六十一辰鷹丸		
同 第三桐丸		
特設驅潜艇		吳鎮守府

2288

同	第四大平丸
同	第六大平丸
同	第八義宗丸
同	第十二義宗丸
同	第十五義宗丸
同	第十六義宗丸
同	第四十一郵船丸
同	第四十二郵船丸
佐世保鎮守府	

内令第四三三號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十二興漁丸(横)」ノ次ニ「蛭子丸(横)、伯州丸(横)、五號富嶽丸(横)、妙見丸(横)、第十二三池山丸(横)、第七海上丸(横)」ヲ加フ
佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第九白神丸(佐)」ノ次ニ「第三桐丸(佐)、第四大平丸(佐)、第六大平丸(佐)、第八義宗丸(佐)、第十二義宗丸(佐)、第十五義宗丸(佐)、第十六義宗丸(佐)、第四十一郵船丸(佐)、第四十二郵船丸(佐)」ヲ加フ
鎮海防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「津蘭丸(佐)」ノ前ニ「第十三日ノ丸(吳)、第十四日ノ丸(吳)、第二十三日ノ丸(吳)、第二十

五日ノ丸(吳)、第六十二日ノ丸(吳)、第六十三日ノ丸(吳)ヲ加フ
高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十三日ノ丸(吳)」乃至「第六十三日ノ丸(吳)」ヲ削ル
廈門方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海上方面根據地隊

第三	第二	第三	第四	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十	第三十一	第三十二	第三十三	第三十四	第三十五	第三十六	第三十七	第三十八	第三十九	第四十	第四十一	第四十二	第四十三	第四十四	第四十五	第四十六	第四十七	第四十八	第四十九	第五十	第五十一	第五十二	第五十三	第五十四	第五十五	第五十六	第五十七	第五十八	第五十九	第六十	第六十一	第六十二	第六十三	第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一	第八十二	第八十三	第八十四	第八十五	第八十六	第八十七	第八十八	第八十九	第九十	第九十一	第九十二	第九十三	第九十四	第九十五	第九十六	第九十七	第九十八	第九十九	第一百
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「蛭子丸(横)」乃至「第七海上丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令第四三五號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中横須賀海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

館山海軍航空隊 千葉縣館山市

秘海軍公報 第五〇二〇號 昭和二十年五月二十三日

五六七

同部中東カリン海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

印支海軍航空隊

横須賀軍港

同部中第一二海軍航空隊及第一三海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中吳海軍航空隊及第三三一海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ部中臺北海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第四三六號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

樺山航空基地

ヲ削リ

三澤航空基地

ノ次ニ左ノ

如ク加フ

樺山航空基地

第九〇三海軍航空隊

厚岸航空基地

館山航空基地ノ項ヲ削ル

父島航空基地ノ項中「第九〇三海軍航空隊」ヲ「父島方面特別根據地隊」ニ、串本航空基地等ノ項中「第九〇三海軍航空隊」ヲ「大津海軍航空隊」ニ改ム

鐵海航空基地

濟州島航空基地

ヲ削リ

指宿航空基地

ノ次ニ左ノ

如ク加フ

舞鶴航空基地

濟州島航空基地

鎮海航空基地

旅順航空基地

第九〇一海軍航空隊

臺灣(東港所在ノモノヲ除ク)航空基地

ヲ

臺灣所在ノ航空基地

改メ東港航空基地ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令兵第二二號

昭和二十年五月二十一日

海軍大臣

假稱四式射爆照準器三型ヲ兵器ニ採用シ四式射爆照準器三型ト呼稱ス

官房軍機密第五一八號

陸海軍電波技術委員會規約申左ノ通改正ス

昭和二十年五月十六日

陸海軍大臣

別表中副委員長ノ項「海軍技術研究所電波研究部長」ヲ「第二海軍技術廠電波兵器部長」ニ改メ委員ノ部海軍ノ項ヲ左ノ如ク改ム

海	軍
海軍省軍務局第一課長	第一海軍技術廠部長
海軍省軍務局局長	第二海軍技術廠部長
軍令部部長	第三海軍技術廠部長
海軍艦政本部第三部第二課長	海軍航空本部第五部第二課長
海軍航空本部第五部第二課長	第一海軍技術廠部長
第一海軍技術廠部長	第二海軍技術廠總務部第二課長（兼務）
第二海軍技術廠總務部第二課長（兼務）	第二海軍技術廠部長
第二海軍技術廠部長	四

同表中幹事長ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「第二海軍技術廠總務部第二課長」ニ、幹事ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「海軍航空本部部員」ニ、海軍電波本部部員「一」ヲ「第二海軍技術廠部員」ニ改ム

（内令提要卷一、三〇ノ六四ノ二頁参照）

官房軍機密第五〇九號

亞號委員會規程中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

別表中副委員長ノ欄「海軍航空技術廠長」ヲ「第一海軍技術廠

秘海軍公報 第五〇二〇號 昭和二十年五月二十三日

長」ニ、分科會委員長ノ欄「海軍航空技術廠發動機部長」ヲ「第一海軍技術廠發動機部長」ニ、「海軍航空技術廠飛行機部長」ヲ「第一海軍技術廠飛行機部長」ニ、委員ノ欄

「海軍省軍務局局長」三
「海軍省兵備局局長」ヲ「海軍省軍務局局長」五
「海軍省兵備局局長」二
「海軍省軍需局局長」二課長
ニ、「海軍航空技術廠部員（科主任）」ヲ「第一海軍技術廠部員（科主任）」ニ、「海軍航空技術廠部員」ヲ「第一海軍技術廠部員」ニ改ム

（内令提要卷一、三〇ノ五二ノ六頁参照）

○通牒

官房機密第八八二號

昭和二十年五月二十一日

海軍省副官

關係各廳長殿

航空兵器主管並ニ類別變更手續ニ關スル件通知

今般達第八四號ヲ以テ航空兵器經理規程中主管並ニ類別改正セラレ候處有改正ニ伴フ首題ノ件左記ニ依リ處理ノコトニ定メラレ候

記

一 海軍航空廠（海軍航空廠支廠ヲ含ム）ノ在庫兵器ハ兵器出納補助簿ノ殘高ノ轉記ニ依リ處理ス

五六九

2291

二 艦船部隊學校等ニテ供給ヲ受ケタル兵器ハ航空兵器定數表ノ變更又ハ兵備品受拂簿ノ殘高ノ轉記ニ依リ處理シ兵備品供用簿ハ舊主管ノ部ヲ削除シ之ヲ新主管ニテ供用ノコト

三 各種車輛類ハ航空兵器經理規程別表第六條ニ追加セラレタル處之ヲ整理上必要ニ付昭和二十年四月一日現在ヲ左ノ様式ニ依リ海軍航空本部ニ通報ノコト

車輛現狀調 (四月一日現在)

品名	數稱	現	有	數	記事
		良品	損品	計	

海人二第二四號ノ一
昭和二十年五月二十日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ六月一日附專修科目變更セラレ候

記

官等	氏名	舊	新	電	報	符
中尉	原 象 平	衛所班	艦艇班	ヨエ七三三	ヨテ二五八ノ三	
同	関 根 猛	同	同	ヨエ二四四	ヨテ二五八ノ六	
同	鈴木 弘	同	同	ヨエ二四六	ヨテ二五八ノ六	

五七〇

○難 獻

○廳舎移轉

官 衙 名	移 轉 先	移 轉 月 日	記 事
第二海軍航空廠 厚木補給工場	神奈川縣高座郡 澁谷町和木(厚木飛行場南側)	四月一日	旅行車(東京急行線江ノ島線)高座下車)徒歩約五分 澁谷町和木(厚木飛行場南側)
吳海軍軍需部關 門支部	門司市棧橋通 (向)司港驛前 井物産ビル三階	四月一日	電話 市内 門司 二九七〇番 市内 門司 二九七八番

○正誤

五月十六日海軍公報第五〇一三號令達欄内令第三九八號中

「呂號第百七」ハ「波號第百七」ノ誤

○本日軍機秘海軍公報第一三七號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報・第五〇二號

昭和二十年五月二十四日
海軍大臣

〇令 達

達第一一五號

海兵團練習部規則中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十一日

海軍大臣

第四條第一項中「軍樂術練習生、」ノ下ニ「法務術練習生、」ヲ加フ

給與

調

第五條中「准士官學生及軍樂術練習生」ヲ「准士官學生、軍樂術練習生及法務術練習生」ニ改メ「特修科軍樂術練習生一年以

内」ノ次ニ「普通科法務術練習生」六月以内」ヲ加フ

第十一條ノ二 海兵團練習部ニ於テ教育スル法務術練習生ヲ普

通科法務術練習生及高等科法務術練習生トス

普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ教育ハ武山海兵

團ニ於テ之ヲ實施スルモノトス

武山海兵團長ハ必要ニ應ジ普通科法務術練習生及高等科法務

術練習生ヲ横須賀鎮守府軍法會議又ハ横須賀海軍刑務所ニ派

遣シ實習セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル普通科法務術練習生及高等

科法務術練習生ハ其ノ實習ニ關シテハ當該廳長ノ指揮ヲ承ク

第十五條ノ二 普通科法務術練習生ハ海軍兵長、海軍上等兵又

ハ進級實役停年ヲ有スル海軍一等兵ニシテ左ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 掌法務兵タルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三 海軍特修兵ニ非ザル者

第十五條ノ三 高等科法務術練習生ハ海軍法務兵曹又ハ任用實

役停年ヲ有スル海軍法務兵長ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノ

ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 品行方正ナル者

二 掌法務ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル性能學力ヲ有スト

認ムル者

三 普通科法務術練習生教程卒業後一年以上勤務ニ服シ其ノ

特技章ヲ有スル者

第十六條及第十七條中「特修科軍樂術練習生」ノ下ニ「並ニ普

通科法務術練習生及高等科法務術練習生」ヲ加フ

第十八條ノ二 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ採

用ニ關シテハ横須賀鎮守府司令長官ハ候補者選出期限、採用

者入團期日其ノ他必要ナル事項ヲ定メ他ノ鎮守府司令長官ニ

通知スベシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ基キ艦船部隊其ノ他各部（當

秘海軍公報 第五〇二號 昭和二十年五月二十四日

五七一

2293

該鎮守府在籍ノ下士官及兵ノ勤務スルモノニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハズ以下同ジノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ身體検査ヲ行ヒ武山海兵團長ノ送付セル試験問題ニ依リ其ノ指定期日ニ於テ學力試験ヲ行ヒ第十五條ノ二又ハ第十五條ノ三ニ該當スル者ヲ選拔シ所見表(別表ノ二)ヲ添ヘ選出期限内ニ報告セシムベシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ報告ニ基キ更ニ選拔ヲ行ヒ前項ノ所見表ト共ニ採用人名及所屬ヲ武山海兵團長ニ通知シ艦船部隊其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内ニ入團セシムベシ

艦船部隊其ノ他各部ノ長ハ前項ノ入團セシムベキ者ニ就キ其ノ出發前ニ於テ更ニ身體検査ヲ行ヒ不合格ノ者アルトキハ之ヲ在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告シ同鎮守府司令長官ハ補缺採用ノ手續ヲ行フモノトス

第二十條ノ二 武山海兵團長ハ普通科法務術練習生及高等科法務術練習生中左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ之ヲ免ジ理由ヲ附シ其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スルト共ニ其ノ前所屬ノ艦船部隊其ノ他各部ノ長及在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ通知スベシ

一 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキ者

二 修業成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者

三 勤務怠慢品行不正ニシテ練習生タルニ不適當ト認ムル者

四 前各號以外ノ事由ニ依リ練習生タルニ不適當ト認ムル者
武山海兵團長ハ普通科法務術練習生及高等科法務術練習生中

前項ノ規定ニ該當スルコトナク同期ノ練習生ト共ニ卒業セシムルコト能ハザル者アルトキハ之ヲ次期練習生ニ編入スルカ又ハ同種ノ次期練習生卒業期迄ノ範圍ニ於テ適宜其ノ修業期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ通知スベシ

第二十四條中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「本人在籍ノ鎮守府司令長官」ニ、「横須賀海兵團長」ヲ「練習生教程ヲ履修シタル海兵團長」ニ改ム

別表ヲ別表第一トシ別表第二ヲ別表ノ如ク加フ

附 則

本達ハ昭和二十年五月十五日ヨリ之ヲ適用ス

(別表添)

(參照) 諸例則卷一、三六五頁

達第一一六號

海兵團練習部教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十一日

海 軍 大 臣

第五章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第六章 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生

第十七條 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ教育ハ軍人精神ヲ涵養シ各種別ニ應ジ必要ナル學術及技能ヲ教授シ法務關係ノ職務ヲ遂行スルニ足ルベキ素養ヲ與フルヲ本旨ト

ス
第十八條 精神教育ハ軍紀ニ慣熟セシメ心身ヲ鍛鍊シ責任觀念ヲ旺盛ナラシメ法務關係ノ職責ニ對スル自覺ヲ深ムルヲ主眼トシ軍隊教育規則ニ準ジ之ヲ實施スルモノトス
第十九條 學術教育ハ單ニ概念及理論ノ教授ニ陥ルコトナク努メテ具體的且實際的ナラシメ之ヲ實施ニ當リテハ各科目トノ關聯ヲ考慮シ平易ニ理解ヲ得セシムルト共ニ不斷研鑽ノ慣習ヲ培養セシムルコトヲ要ス
第二十條 普通科法務術練習生ニ對スル教育ノ程度ハ掌法務兵トシテ其ノ職務遂行上取敢ズ必要ナル搜查及行刑ニ關スル基礎的知識及技能ヲ修得セシムルヲ基準トシ其ノ教科目左ノ如シ

科	日	項	日	記	事
本	一	憲法	國體、天皇大權、臣民ノ權利義務、司法		
二	刑罰法令	刑法大要、海軍刑法大要其ノ他主要刑罰法令大要			
三	刑事手續法	海軍軍法會議大要			
四	行刑法令	海軍監獄令大要、同令施行細則大要			
五	軍律	支那事變以後ノ海軍軍律大要			
六	懲罰令	海軍懲罰令大要			
七	搜查要領	犯罪搜查ノ要領、犯人逮捕ノ要領			
八	戒護要領	戒護、教化及押送ノ要領、戒具使用法			
九	普通學	國語、作文、算術			
				國語、算術、高等科卒業程度トス	

第二十一條 高等科法務術練習生ニ對スル教育ノ程度ハ普通科法務術練習生教程ト連絡ヲ保チ法務科重要配置ノ業務遂行ニ必要ナル學術及技能ヲ修得セシムルヲ基準トシ其ノ教科目左ノ如シ

科	日	項	日	記	事
本	一	法學通論	法ノ理念、行政警察ノ概念、私法ノ概要(附)、戒嚴令大要、私		
二	刑罰法令	刑法、海軍刑法、軍機保護法、治安維持法、其ノ他主要刑罰法令概要			
三	刑事手續法	海軍軍法會議法、刑事交渉法、少年法、恩赦令			
四	行刑法令	海軍監獄令、同令施行細則、行刑果進退令、海軍假出獄取締細則			
五	軍律	支那事變以後ノ海軍軍律			
六	懲罰令	海軍懲罰令			
七	搜查要領	訴訟書類作成法、書類送達、裁判執行手續			
八	戒護要領	搜查實務ノ概要特ニ取調要領			
九	行刑實務要領	行刑戒護、行刑教化、行刑作業			
十	普通學	國語、作文			
				國語ハ中等學校第四學年程度トス	

科	日	項	日	記	事
補	十	砲術	執銃教範、小銃拳銃射撃		
十一	信託	手旗信號法、手先信號法			
十二	武術	劍道、柔道、銃劍術、游泳術			
十三	體操				
十四	體操				
				必要ニ應ジ適宜取捨スルコトヲ得	

戰海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月二十四日

五七三

2295

科	術	執銃教練、小銃拳銃射撃	必要ニ應ジ
主	信	手旗信號法、手先信號法	適宜取捨ス
宣	武	劍道、柔道、銃劍術、游泳術	ルコトヲ得
古	體操、體技		

附則

本達ハ昭和二十年五月十五日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 諸例則卷三、八四八ノ一七頁

達第一一八號

海軍工員戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十三日

海軍大臣

第一條中「第一條ニ掲グル地(以下戰地ト稱ス)ヲ」第一條ニ規定スル地域(以下單ニ戰地又ハ準戰地ト稱ス)ニ、「又ハ戰地」ヲ、「戰地若ハ準戰地」ニ、「若ハ戰時編制」ヲ「又ハ戰時編制」ニ改ム

第二條中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當(加給ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ、「戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地ト戰地外若ハ準戰地外トノ間又ハ戰地若ハ準戰地」ニ改ム

第三條及第四條中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當」ニ改ム

第六條及第二十七條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

第八條第一項中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當」

ニ、同條第四項中「戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改メ同條第五項中「及臨時家族手當」ヲ削ル

第十八條第一項中「第十一條ノ四」ヲ「第十一條ノ五」ニ、同條第二項中「第十九條、第二十條」ヲ「第十七條ノ二、第十七條ノ三、第十九條」ニ改ム

第二十條ノ二ヲ削ル

第二十條ノ三中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加ヘ同條ヲ第二十條ノ二トス

第二十一條第一項中「臺灣、伊豆諸島、種子島以南ノ薩南諸島又ハ琉球諸島」ヲ「又ハ準戰地」ニ改メ同條第二項中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

第二十一條ノ二、派遣手當ノ支給ヲ受ケタル者其ノ事由發生後一年ヲ經過シ再ビ前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ該當スルトキハ更ニ同條ノ規定ニ依ル派遣手當ヲ支給ス

第二十三條及第三十二條中「戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改ム

第二十八條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ、「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第三十條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ「昭和十六年官房機密第一二六三九號第一項第一號乃至第三號ニ該當スル各

部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改ム

第三十一條 工員戰地ニ於テ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ハ之ヲ官費支辨トス

前項ノ規定ハ準戰地ニ在ル工員ニ付之ヲ準用スルコトヲ得

第三十三條中「第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員」ヲ「工員戰地ニ於テ」ニ改ム

第三十六條中「又ハ戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ加フ

第一表ノイヲ別表ノ如ク改ム

第一表ノロ中「同二十六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク）」ヲ「同三〇度五十分以北ノ本邦（千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ、「同二十六度以南」ヲ「同三〇度五十分以南」ニ、「及北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯領沿岸」ヲ「北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯領沿岸及第二海域ニ在ル地域沿岸」ニ改ム

同十割 同十二割 同八割 同十二割 同十五割 同九割

改ム

第二表第二欄中「同二十六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク）」ヲ「同三〇度五十分以北ノ本邦（千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ改ム

同表第三欄中「同二十六度」ヲ「同三〇度五十分」ニ、「第二海域及北緯五十度以南ノ千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、支那沿岸、第三海域」ヲ「及第三海域」ニ改ム

海軍公報 第五〇二號 昭和二十年五月二十四日

同表第四欄中「北緯五十度以北ノ千島諸島沿岸、南洋群島沿岸、新南群島沿岸、北緯五十度以北ノ亞細亞蘇聯領沿岸及第四海域」ヲ「千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、南洋群島沿岸、新南群島沿岸、支那沿岸、北緯五十度以北ノ亞細亞蘇聯領沿岸、第三海域及第四海域」ニ改ム

第四表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 本表ノ被服物品ハ通常物品トス但シ制式下士官兵ニ同ジキモノハ兵備品ヲ以テ繰替貸與スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和二十年五月十六日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（別表添）

官房軍第二九六號

高等軍法會議首席法務官及東京軍法會議首席法務官ハ必要ニ應ジ部下法務科特務士官准士官下士官及兵ヲシテ海軍省法務局ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

官房軍機密第五一三號

三井造船株式會社曾根造船所ニ於テ製造ノ「コンクリート」貨物船一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年五月二十日

五七五

2297

海軍大臣

船名	船種	所屬	定數別	記事
第四武智	輸送船	大阪海軍運輸部	臨時附屬	

○難 敵

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電 話	記 事
波號第三潜水艦隊員事務所	佐世保海軍工廠内	五月二日		
波號第二潜水艦隊員事務所	佐世保海軍工廠内	五月三日	九五二七六	
第五百四設營隊	横須賀海軍施設部内	五月二五日		
第二海軍衣糧廠 久留米出張所	福岡縣久留米市久留米工業試験所内	五月二五日		九州地區ニ於ケル被服糧食生産管理

○學生入校期

昭和二十年官房人機密第二五〇號ニ依ル本校第三十八期特修科（機雷）學生ハ六月七日（木）始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度

（海軍對潜學校）

(長門軍艦)						表見所者補候生習練術務法科(等高)期(三)第						
所轄見	科長所見	分隊長又ハ分隊長職務執行者所見	名轄所	試驗成績	勤務日數	續業年及月日	練習生(新兵)卒	官醫檢査印士	身體	順選序拔		
昭和 年 月 日		總人評物	勤務 (評語ヲ以テ記入ス)	試験成績 (各試験科目毎ニ百分比ヲ記入ス)	高等科練習生候補者ニ在リテハ普通科特技章付與以後ノ勤務日數ヲ記入ス	現役滿年シタル月日	左例ノ如ク記入ス 〔二〇、三、一〇普法〕	身長	志望	官職氏名年齢		
(艦長 某)	(航海長 某)	(分隊長 某)	性行	檢定成績	日期年月	進級任川停年	順序	望志	望志回数	(氏名ニハ振假名ヲ附スルモノ外入團)		
			技能	現配置	賞罰					前籍入籍學歴		
			(學術、技藝、武技、體技其ノ他) (特ニ長ズト認ムルモノヲ記入ス)	(現配置以外ニ適任ト認ムル配置アルトキハ其ノ旨附記ス)	(罰ハ朱書ス)			(當該期ヲ算入シタル回數ヲ記入ス)	(高卒、中三修ノ如ク記ス)	籍番號		

(昭和二十年五月二十四日秘海軍公報)

(達第一一八號別表)

(昭和二十年五月二十四日祕海軍公報)

考 備	第一表ノ(イ)増給	
	區 分	
	標 準	給 率
一 増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務應ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該應退職ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス 二 準戦地ニ在リテハ廳長必要アリト認ムルトキハ所屬長官ノ認許ヲ得テ十二割以下ノ増給ヲ支給スルコトヲ得	戦 地	給料ノ二十割
	戦 地	同 二十三割
	戦 地	同 十七割
	戦 地	同 十二割

2300

秘

海軍公報

第五〇二二號

昭和二十年五月二十五日(金)

海軍大臣官房

接

○軍令

朕海軍總隊司令部令中ヲ改定シ之ヲ施行ヲ命ス

御名 御璽

昭和二十年五月二十四日

海軍大臣 米内光政

軍令海第五號

海軍總隊司令部令中左ノ通改正ス

第四條第一項中「聯合艦隊、支那方面艦隊」ヲ「各艦隊」ニ改ム

○令達

内令第四三三號

第百六十五號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

内令第四三四號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

第二監視艇隊ノ項中「第百九十一號哨戒特務艇」ノ上ニ「第百

海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月二十五日

六十五號哨戒特務艇、」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房軍機密第五二五號

昭和二十年官房軍機密第二四四號中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十二日

海軍大臣

別表中海軍施設本部ノ項「二」ヲ「四」ニ改ム

(参照) 昭和二十年官房軍機密第二四四號ハ下士官及兵ノ派遣勤務ヲ定ムル件ナリ

○通牒

官房軍機密第五二七號

昭和二十年五月二十三日

海軍次官

關係各廳長殿

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍調節ニ關スル件

照會

首題ノ件別紙ノ通陸軍次官ヨリ申越アリタル處既ニ同要領ニ準

テ取得シツツアルコト存ズルモ地方行政協議會ヲ介スルコト

ニ關シ一層善處方取計相成度

五七七

2301

(別紙)

陸密第二五五五號

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍節調ニ關スル件
通牒

昭和二十年五月七日

陸 軍 次 官

海軍次官殿

最近防衛分散並ニ内地兵備等ノ強化徹底ニ伴ヒ地方施設等ノ取得利用ニ就テハ陸海軍共逐次増大ノ一途ヲ辿リツツアル處地方ニ依リテハ往々ニシテ兩者競合ヲ來タシ相互計畫ノ齟齬ヲ見又契約條件等モ異ニスル爲地方側ニ奇異ノ感ヲ抱カシメアル例モズルヤニ聞キ及フモ陸軍トシテハ取敢ヘス各軍管區ニ對シ別紙ノ通牒指導致置タルニ付貴軍ニ於カレテモ既ニ指導セラレアルコトト存スルモ此ノ際更ニ兩者節調協力ニ關シ各鎮守府等ニ對シ然ルヘク指導相煩度

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍節調ニ關スル件
通牒

昭和二十年五月七日

陸 軍 次 官

首題ノ件ニ關シテハ客月十九日陸密第一八四一號通牒其他ノ機會ニ於テモ既ニ要望致シ置キタル處ナルモ防衛分散並ニ内地兵備等ノ強化徹底ニ伴ヒ地方施設等ノ取得モ將來益々増大ノ一途ヲ辿ルヘキハ必然的趨勢ニ有之ニ拘ラズ之カ陸海軍ノ節調ニ關

シテハ未タ遺憾ノ點有之即チ既ニ各地ニ於テ競合ヲ來シ兩者間ニ契約條件等ニ懸隔アル爲地方側ニモ奇異ノ感ヲ與ヘアルノ例モ聞ク中央トシテハ本件ノ地方的特質ニ鑑ミ成ルヘク各軍管區ニ於テ具體的ニ解決スルヲ至當トシ地方行政協議會ヲ介シ統制アル計畫的取得ヲ圖ラレ度意見ニ付之カ節調ニ關シ更ニ特段ノ善處方相成度

追テ海軍中央當局ニ對シテハ別紙ノ通達聯絡致シアリ尙特ニ中央解決ヲ要スルモノアラハ直チニ處置スヘキニ付本件ニ關スル貴軍管區ノ實情並ニ貴見承リ度

軍務第三八七號

昭和二十年五月二十四日

海軍省軍務局長

各鎮守府、警備府、參謀長、
海軍總隊、海上護衛各參謀長、
各艦隊、參謀長、
各艦隊、參謀長、
各艦隊、參謀長、

主要食糧配給上ノ不實在人口ノ整理及異動人口ノ把握協力ニ關スル件申進

政府ニ於テハ國內食糧需給調整ニ最善ヲ期シ確實ナル配給人口把握ノ爲主要食糧配給上ノ不實在人口ノ整理並ニ異動人口ノ明確化ニ關シ調査實施中ノ處海軍ニ於テモ左記ニ據リ之ニ協力スルコトニ定メラレタルニ付可然取計相成度

記

一 糧食給與ノ軍人軍屬ニシテ離現役、召集解除、轉勤等ノ異

勤ニ依リ一般民需配給ニ移行スルトキハ當該廳長ニ於テ別紙様式ニ依ル糧食給與停止證明書ヲ發行シ之ヲ本人ニ交付スルモノトス

- 二 徵募、召集、採用等ニ依リ入團（入隊、入校）シ又ハ軍人軍屬轉勤等ニ依リ糧食ヲ給與スル場合ハ市區町村長ノ發行スル轉出證明書ヲ徵シ民需配給ノ停止ヲ確認スルモノトス
- 三 部内各工作廳勤務工員ニ對スル配給人口調査ニ關シテハ特ニ正確ナラシムル様必要ナル措置ヲ講ズルモノトス
- 四 海軍關係部外工場事業場等ニシテ勞務特配アルモノニ對シテハ二重配給ノ絶滅、職種詐稱防止ニ關シ特ニ指導監督ヲ嚴ニスルコト

（別紙添）

教育機密第三二八號

昭和二十年五月二十二日

海軍省教育局長
海軍省人事局長
海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

各種普通科練習生、飛行豫科練習生、講習員、新兵等ノ卒業成績順序ニ關スル件申進

首題ノ件各學校規則、海兵團練習部規則、海軍練習航空隊規則又ハ特技兵臨時講習及人事取扱規則等ノ規定ニ拘ラズ當分ノ間左記ニ依リ處理スルコトニ定メラレ候

記

左ノ標準ニ依リ「甲」「乙」「丙」ノ評語ヲ以テ區分表示ス

- 「甲」卒業成績優秀ナル者 卒業員數ノ約二五%
- 「乙」卒業成績「甲」ニ次グ者 卒業員數ノ約五〇%
- 「丙」卒業成績「乙」ニ次グ者 卒業員數ノ約二五%

軍需二機密第五四二號

昭和二十年五月二十四日

海軍省軍需局長
海軍航空本部長

關係各廳長殿

新製（修理）飛行機整備試飛行並ニ空輸用燃料整理ノ件通牒

首題燃料（潤滑油ヲ含ム）自今左記ニ依リ整理相成度

記

- 一 第一〇一航空戰隊担任ノ新製機種
(イ) 官領收迄（領收基地ヨリ供給基地迄ノ空輸ヲ含ム）ハ生産廠社
(ロ) 供給基地ニ於ケル整備試飛行並ニ供給基地ヨリ部隊迄ノ空輸ハ第一〇一航空戰隊
- 二 其ノ他ノ機種及修理機
軍需二機密第一三六號（昭和十九年一月三十一日附）飛行機空中輸送用燃料整理ノ件通牒ノ通

海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月二十五日

五七九

2303

海功調機密第一〇號ノ五

昭和二十年五月二十四日

海軍功績調査部長

關係各所轄長殿

特攻隊員出撃者名簿送付ノ件照會

連賞實施ノ資料ト致度ニ付自今特攻隊員出撃ノ場合ハ速ニ出撃者名簿(別紙様式)一通當部宛送付相成度

(別紙添)

〇雜 款

〇開廳 開隊

官衙、部隊名	所在地	開廳、開隊月日	記 事
舞鶴海軍運輸部 敦賀支部	福井縣敦賀市寺町本妙寺内	四月九日	
同 境 支 部	鳥取縣西伯郡境町榮町一〇二	五月五日	
同 酒田出張所	山形縣酒田市直荒町五六	五月一日	電話 四七九
同 富山出張所	富山縣富山市東岩瀬町一八北所内	五月五日	
田邊海兵團 (舊大阪海兵團田邊分團)	和歌山縣田邊市文里	五月一日	旅行順路 天王寺驛ヨリ飯和線經山 東和歌山驛ニテ紀勢西線 乗換伊田驛下車徒歩 約二十分
第三千二百十四 設營隊 (中森部隊)	鹿兒島縣嶺南郡 松山村	五月九日	旅行順路 都城ニテ志布志線ニ乗換 大隅松山驛下車徒歩 約五分

〇赴任轉勤旅費ノ件

當司令部ヘノ轉勤者ハ鹿兒島縣掛指宿驛迄前金拂ノコトニ取計ハレ度

追テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ佐世保市ナリ

(第五特攻隊司令部)

〇訂正

五月十日附秘海軍公報雜款欄合同海軍葬儀執行ノ項中「青森地方海軍人事部長」ヲ「大湊海軍人事部長」ニ訂正ス

〇本日軍秘海軍公報第一三八號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
吳海軍工廠、關係各警備隊、第十一、川棚、大浦各突擊隊、
第三一、第一一九、第二二〇各震洋隊、關係各學校

(軍務三第八七號別紙様式)

(昭和二十年五月二十五日秘海軍公報)

糧食給與停止證明書

氏官等(身分)名	生年月日	轉出先	轉出年月日	糧食給與停止年月日	記

右ノ通糧食給與セシコトヲ證明ス

昭和 年 月 日

廳長 氏

名 印

2305

(昭和二十年五月二十五日海軍公報)

所轄名

						(現官) 用進級年 (職)月日 (任)
						氏名 (生年月日)
						電報符號 又入籍番號
						本籍地
						現勳章
						同年授月日與上

二 氏名ニハ振假名ヲ附シ舊氏名アルモノハ之ヲ附ス
二 官等ハ出繫當時ノモノヲ記入ス

秘

海軍公報

第五〇二四號

〇令 達

内令第四四〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月十七日

海軍大臣

第十六潜水隊ノ項中「波號第四百」ノ下ニ「波號第四百五」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第四四二號

特設船舶警戒部中左ノ通改正セラル

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

別表中「新潟」ヲ「敦賀」ニ改メ「門司」ノ上ニ「新潟」ヲ、「小樽」ノ下ニ「函館」ヲ、「博多」ノ下ニ「大連」ヲ、「基隆」ノ上ニ「境」ヲ、「名古屋」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ二頁参照)

秘海軍公報 第五〇二四號 昭和二十年五月二十八日

内令第四四三號
特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

第五條第二號ヲ削ル

海軍大臣

第六條中

新潟 船舶警戒部新潟支部

ヲ

函館	船舶警戒部函館支部
新潟	船舶警戒部新潟支部
伏木	船舶警戒部伏木支部
敦賀	船舶警戒部敦賀支部
境	船舶警戒部境支部
名古屋	船舶警戒部名古屋支部
博多	船舶警戒部博多支部
大連	船舶警戒部大連支部

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

五八五

2307

内令第四四四號	第八十七號海防艦	右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル 舞鶴鎮守府在籍	昭和二十年五月二十日	海軍大臣
内令第四四五號	第二號哨戒特務艇	右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム	昭和二十年五月二十日	海軍大臣
内令第四四六號	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	昭和二十年五月二十日	海軍大臣	第一監視艇隊ノ項中「第一號哨戒特務艇、」ノ下ニ「第二號哨戒特務艇、」ヲ加フ
内令第四四七號	驅逐隊編制中左ノ通改定セラル	昭和二十年五月二十日	海軍大臣	第四十一驅逐隊ノ項中「冬月、」ノ下ニ「宵月、」ヲ加フ
内令第四四八號	海防隊編制中左ノ通改定セラル	昭和二十年五月二十日	海軍大臣	第四十三驅逐隊ノ項中「樫、」ノ下ニ「椎、」ヲ加フ
内令第四四九號	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	昭和二十年五月二十日	海軍大臣	第五十二驅逐隊ノ項中「楓、」ノ下ニ「梨、萩、」ヲ加フ

七十九號哨戒特務艇、」ヲ加フ	(内令提要卷一、一五二頁參照)	内令第四四七號	驅逐隊編制中左ノ通改定セラル	昭和二十年五月二十日	海軍大臣
第四十一驅逐隊ノ項中「冬月、」ノ下ニ「宵月、」ヲ加フ	第四十三驅逐隊ノ項中「樫、」ノ下ニ「椎、」ヲ加フ	第五十二驅逐隊ノ項中「楓、」ノ下ニ「梨、萩、」ヲ加フ	(内令提要卷一、六八頁參照)	内令第四四八號	海防隊編制中左ノ通改定セラル
昭和二十年五月二十日	海軍大臣	第十一海防隊ノ項中「第五十七號、」ノ下ニ「第七十一號、」ヲ加フ	第二十一海防隊ノ項中「第百九十四號」ノ下ニ「第百九十八號」ヲ加フ	(内令提要卷一、七三頁參照)	内令第四四九號
特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル	特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十日 海軍大臣 第一監視艇隊ノ項中「長運丸」ヲ削ル 第二監視艇隊ノ項中「神津丸」ヲ削ル 第三監視艇隊ノ項中「第一雲洋丸」ヲ削ル (内令提要卷一、一五二頁参照)			内令第四五〇號 汽船 長運丸 汽船 第一雲洋丸 汽船 神津丸 右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル 昭和二十年五月二十日 海軍大臣		
内令第四五一號 左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム 昭和二十年五月二十日 海軍大臣			内令第四五二號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年五月二十日 海軍大臣 第三十二突撃隊ノ項魚雷艇ノ欄「第八百四十號(佐)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)		
内令第四五三號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年五月二十日 海軍大臣 第二魚雷艇隊ノ項中「²⁴43」及「²⁴26 ²⁴準」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)			内令第四五四號 第五百五十二號魚雷艇 第五百五十三號魚雷艇 第二百四十三號魚雷艇 魚雷艇 第二十四號準艇 同 第二十六號準艇 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク 第八百四十號魚雷艇 右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク		

秘海軍公報 第五〇二四號 昭和二十年五月二十八日

五八七

2309

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

○雜款

○從軍年加算付與ニ關スル件

今般官房人第一三八號ヲ以テ從軍加算ニ關スル件改正セラレ昭和十九年七月十日以降當隊教育中ノ學生、生徒、各練習生、新兵、内火術（自動車班）講習員ニ對シテモ直接防衛ニ關スル勤務ニ從事シタルモノニ該當シ職務加算（一月ニ付一月）ヲ付與セラルコトト相成候條現貴所轄勤務員ニ付調査ノ上左記ニ依リ履歷記註恩給年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和 至昭和	年 年	月 月	日 日	第二相模野海軍航空 隊ニテ	職務丁	第二相模野 海軍航空隊
------------	--------	--------	--------	------------------	-----	----------------

（第二相模野海軍航空隊）

今般官房人第一三八號ニ依リ當隊練習生並ニ新兵教習中ノ者ニ對シ昭和十九年七月十日ヨリ職務丁加算セラルコトト相成候ニ付テハ右期日以後貴廳ニ轉動セル者ノ履歷書（表）左記ニ依リ記註ノ上恩給年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和 至昭和	年 年	月 月	日 日	大村海軍航空隊諫早分遣隊ニテ 職務丁	大村空諫早分 隊
自昭和 至昭和	年 年	月 月	日 日	諫早海軍航空隊ニテ 職務丁	諫早空 隊

（諫早海軍航空隊）

今般官房人第一三八號（三月十五日海軍公報）ニ依リ大竹警備隊及同柳井支隊勤務員（潜水學校及同分校職員、學生、練習生、講習員）ニ對シ昭和十九年七月二十日以後同勤務期間職務加算（二月ニ付一月）ヲ付與セラルコトト相成候ニ就テハ現貴所轄勤務員ニ對シ前記該當者ヲ調査ノ上左ノ通處理方取計相成度

一 履歷記註

（イ）大竹警備隊勤務員（潜水學校職員、學生、練習生、講習員）

自 至	年 年	月 月	日 日	大竹警備隊ニテ職務丁
--------	--------	--------	--------	------------

（ロ）大竹警備隊柳井支隊勤務員（潜水學校分校職員、練習生、講習員）

自 至	年 年	月 月	日 日	大竹警備隊柳井支隊ニテ職務丁
--------	--------	--------	--------	----------------

二 海軍省人事局長又ハ所屬人事部長ニ對シテハ規定ニ依リ恩給年加算通知相成度

（大竹警備隊）
（海軍潜水學校）

○正誤

五月十四日附秘海軍公報雜款欄「海軍氣象學校」ハ「海軍氣象學校」ノ誤

（海軍氣象學校）ノ誤

○本日軍機秘海軍公報第一三九號（甲配付）發行セリ

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報 第五〇二五號

昭和二十年五月二十九日(火)

海軍大臣官房

○令 達

内令第四三九號
輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月十六日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第二十號」ノ上ニ「第十九號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第四四五號(軍機秘海軍公報第一四〇號(乙配付)ニ掲載)

内令第四五六號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第五百一十一號型ノ項中「第百五十二號、第百五十三號」ヲ、同第二百四十一號型ノ項中「第百四十三號」ヲ、同第五百三十八號型ノ項中「第百四十號」ヲ、同十號半型ノ項中「第二十四號、第二十六號」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁参照)

秘海軍公報 第五〇二五號 昭和二十年五月二十九日

○通 牒

官房軍機密第五三六號

昭和二十年五月二十八日

海軍省副官

關係各廳長殿

敵落下傘部隊等發見ノ通報ヲ内容トスル通信ノ取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ通信院ヨリ左記ノ通知有之候條可然取計相成度

記

防空監視ニ從事スル者ヨリ發スル敵ノ落下傘部隊、空挺部隊及上陸部隊發見ノ報告ヲ内容トスル通信並ニ機雷監視ニ從事スル者ヨリ發スル敵ノ機雷發見ノ報告ヲ内容トスル通信ハ特ニ防空通信規則ニ依ル情報トシテ取扱フコトニ定メラレ候條了知相成度

○雜 款

○開庭 開庭

官衙、部隊名	所在地	開庭月日	記	事

五八九

2311

○廳舎移轉		佐世保海軍施設 部屋支部 大字中名宇部 訪市	五月一日		
船船警戒部上海 支部(事務所) 樓内		第一海軍軍需部 三番地	五月八日		
長崎港海警隊 三番地		長崎市大浦町一 五月四日	武官府船警支部ト近接ス		
官 衙 名		移 轉 先	移轉月日	記	事
佐世保海軍軍需 部屋支部		鹿兒島市外伊敷 下伊敷三二五九	五月二〇日	旅行願路 鹿兒島驛又ハ西鹿兒島驛 ヨリ市電伊敷下車徒歩約 十分	
第十二海軍航空 廠本部		大分市大字瀧尾 宇岩屋	同	新本部地区ハ總務科、醫務 科、會計科、補給科、飛行機 科、全部及補給科、飛行機	
○事務開始		事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話
第五百七十一、 第五百七十二、 第五百七十三、 第五百七十四設 營隊		大湊海軍施設部内		五月二五日	
第五百七十六設 營隊		廣島縣吳市吳海軍施 設部内		同	
宇佐海軍航空隊 殘務整理班		大分縣宇佐郡柳浦字 町西海軍航空隊宇 佐基地内		同	
特設運送班 殘務整理班		吳海軍經理部内 吳鎮守府整理部内		五月七日	
		郵便物發送先 大分縣宇佐郡 佐々木分隊 土原局 郵便局 吳海軍經理部 佐々木分隊 佐々木分隊 佐々木分隊			
		○本日軍極秘海軍公報第一四〇號(乙配付)發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、 同支廠			
		○本日海軍公報發行セズ			
		理班 綴給殘務整	同	五月二〇日	同 山口隊



海軍公報 第五〇二六號

昭和二十年五月三十日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第四二八號(軍機秘海軍公報第一四一號(乙配付)ニ掲載)

内令第四二九號(軍機秘海軍公報第一四〇號(乙配付)ニ掲載)

内令第四六〇號

特設船舶救難本部令中左ノ通改正セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第二條中「撤收」ノ下ニ「竝ニ重要港灣及河川ノ水路啓開(機雷掃海ヲ除ク)」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ五頁参照)

内令第四六一號

特設船舶救難本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第七條第五號中「沈船處理」ノ下ニ「竝ニ重要港灣及河川ノ水路啓開(機雷掃海ヲ除ク)ニ關スル作業」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ七頁参照)

内令第四六二號

鎮守府及警備府警備區中左ノ通改正セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

吳鎮守府ノ項中「宮崎縣、」及「宮崎縣(有明灣ヲ除ク)ノ下ニ「宮崎縣」ヲ加ヘ同項海上區畫ノ欄中「(有明灣)」ヲ削ル

(内令提要卷三、一頁参照)

内令第四六三號

鎮守府警備區ノ特例ニ關スル件左ノ通定メラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

當分ノ間佐世保鎮守府ノ警備區中宮崎縣(有明灣ヲ除ク)ノ海上警備ハ吳鎮守府ノ所管トス

(内令提要卷三、一頁参照)
(昭和二十年内令第四六二號参照)

官房經機密第三三三號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス

海軍公報 第五〇二六號 昭和二十年五月三十日

五九一

2313

昭和二十年五月二十八日

海軍大臣

第十一條ノ五ヲ第十一條ノ六トシ以下第十一條ノ九迄順次繰下
第十一條ノ五 家族移轉料支給上六歳未満ノ家族一人ヲ超ユル
場合ハ海軍内國旅費規則第五十二條第一項第二號但書ノ規定
ニ拘ラズ其ノ一人ヲ超ユル員數ニ付一人毎ニ其ノ移轉ノ際ニ
於ケル本人相當ノ鐵道賃ノ二分ノ一ヲ支給スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和二十年五月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集三二九頁

○ 雜 款

○本日軍機秘海軍公報第一四一號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、
同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第五〇二七號

昭和二十年五月三十一日(木)

海軍大臣官房

○令 達

内令第四六四號
驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第十七驅逐隊ノ項中「磯風、」ヲ削ル
第四十一驅逐隊ノ項中「宵月、」ノ下ニ「夏月、」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁參照)

内令第四六五號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第三十四潛水隊ノ項中「呂號第四十一、」
及「呂號第五十六、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁參照)

内令第四六六號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍公報 第五〇二七號 昭和二十年五月三十一日

第一海防隊ノ項中「能美、」ヲ削ル
第十一海防隊ノ項中「第一號、第五號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七三頁參照)

内令第四六七號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第百四十六號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七四頁參照)

内令第四六八號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

第十一驅逐隊ノ項中「第七號、」ヲ削ル
第二十一驅逐隊ノ項中「第十七號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七六頁參照)

五九三

2315

内令第四六九號

横須賀鎮守府警備海防艦

第五十六號海防艦

佐世保鎮守府警備海防艦

第一百八十六號海防艦

舞鶴鎮守府警備掃海艇

第二十號掃海艇

右役務ヲ解カル

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

内令第四七〇號

吳鎮守府在籍

驅逐艦 磯風

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

呂號第三十一潛水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十一潛水艦

呂號第四十九潛水艦

呂號第五十六潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

海防艦 御藏

海防艦 能美

第三十一號海防艦

第三十三號海防艦

第五十六號海防艦

吳鎮守府在籍

第一號海防艦

第五號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 男鹿

第十八號海防艦

第二十號海防艦

第二十五號海防艦

第一百八十六號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

第四百十六號輸送艦

右帝國輸送艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

第十二號掃海艇

舞鶴鎮守府在籍

第二十號掃海艇

右帝國掃海艇籍ヨリ除カル

吳鎮守府在籍
第七號 驅 潛 艇
佐世保鎮守府在籍
第十七號 驅 潛 艇
右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル
昭和二十年五月二十五日
海 軍 大 臣

○ 雜 款

○ 事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話	記 事
第十一海軍航空廠 自働車部海田市工 場	廣島縣安藝郡海田村第 十海軍航空兵器部海 田市工場内	五月二五日		
大同 阪 工 場	大阪市内西淀川區大和田町 第十一海軍航空兵器補給部 大阪補給部内	同		
波號第二百七潜水 艦艇裝具事務所	佐世保海軍工廠内	五月二四日		
二號輸送艦艇裝具 事務所	吳海軍工廠内	五月二六日		
海防艦美濃裝具 事務所	横須賀市谷戸六番地浦賀 内渠株式會社浦賀造船所	五月二九日		
第五百二設營隊	横須賀市戸塚區中和田町横 須賀海軍施設部教導營 班内	五月二〇日		

○ 轉勤者赴任先

第六〇一海軍航空隊並ニ所屬飛行隊へノ轉勤者ハ左記ニ依リ赴
任セシメラレ度

第六〇一海軍航空隊
戰團第三〇八飛行隊
戰團第三〇八飛行隊
攻撃第一〇飛行隊

茨城縣東茨城郡橋村百里原航空基地
(參宮線小川驛下車)

追テ旅費ハ前金拂、家族移轉料支給ノ上勤務地ハ愛媛縣松山
市ナリ爲念

(第六〇一海軍航空隊)

當分ノ開當隊へノ轉勤者ハ鹿兒島縣肝屬郡中良町中良航空基地
(古江線東中良驛下車徒歩約一時間)ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第九三一海軍航空隊)